SONY

3-857-706-**02** (1)

ネットワークカメラ

ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン 1.1

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**このユーザーガイドをよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SNC-M1/M1W

安全のために

ソニー製品は正しく使用すれば事故が起きないように、安全には充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般および設置の注意事項が記されています。

定期点検を実施する

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたりキャビネットを破損したときは

❶ 電源コードおよび接続ケーブルを抜く。
❷ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

このユーザーガイドおよび製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、**火災**や**感電**などにより**死亡**や**大けが**など人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、**感電**やその他の事故により**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

目次

はじめに

準備

カメラの操作

カメラの設定

その他

火災　感電

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

指示

設置や配線工事のときに屋内配線や屋内配管を傷つけないよう気をつける

特に壁に穴を開けたり、電源コードやケーブルを固定したりするときは充分に気をつけてください。屋内配線や屋内配管の傷は、火災や感電、漏電の原因となります。

指示

壁や天井に設置するときは、ACアダプターが落下しないようしっかり固定する

AC アダプターが落下して頭にあたると、大けがの原因となります。

指示

電源コードやケーブルを窓やドアにはさみ込まない

コードやケーブルが傷つくと、ショートによる火災や感電の原因となります。

禁止

医療機器の近くで無線通信機能は使わない

電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。満員電車などの混雑した場所や医療機関の屋内では使わないでください。

注意

無線通信機能を使用している場合、心臓ペースメーカーの装着部位から離すこと

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

禁止

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは無線通信機能は使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

禁止

無線通信機能を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、電源を切って通信機能の使用を中止する

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。

指定された電源ケーブルや AC 電源アダプター、接続ケーブルを使う

設置説明書に記されている電源ケーブルや AC 電源アダプター、接続ケーブルを使わないと、火災や故障の原因となることがあります。

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となることがあります。特に、窓際に置くときなどはご注意ください。

水にぬれる場所で使用しない

水ぬれすると、漏電による感電、発火の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

指定された電源電圧で使用する

指定されたものと異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

設置は専門の工事業者に依頼する

設置については、必ずお買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。
壁面や天井などへの設置は、本機と取り付け金具を含む重量に充分耐えられる強度があることをお確かめの上、確実に取り付けてください。充分な強度がないと、落下して、大けがの原因となります。
また、1年に1度は、取り付けがゆるんでいないことを点検してください。また、使用状況に応じて、点検の間隔を短くしてください。

機器や部品の取り付けは正しく行う

機器や部品の取り付け方や、本機の分離・合体の方法を誤ると、本機や部品が落下して、けがの原因となることがあります。
設置説明書に記載されている方法に従って、確実に行ってください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機が接続されている電源供給機器の電源コードや DC 電源ケーブル、本機の接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

雨のあたる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所やこの設置説明書に記されている使用条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

AC 電源コードを傷つけない

AC 電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

・ コードを加工したり、傷つけたりしない
・ 重い物をのせたり、引っ張ったりしない
・ 熱器具に近づけたり、加熱したりしない
・ コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く

万一、コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口に交換をご依頼ください。

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところ、振動や衝撃のかかるところに設置すると、倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。

また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

電波障害自主規制について（SNC-M1W のみ）

本機は電波法第 4 条、電波法施行規則第 6 条により技術適合証明を受けております。本機には（財）無線設備検査検定協会の技術基準適合証明ラベルが貼ってあります。このラベルをはがしたり、本機の内部を改造して使用したりすることは電波法で禁じられています。

この機器は 2.4GHz 帯の無線チャンネル 1 ～ 13 まで使用することができますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

この機器の使用上の注意

この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯ではレンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、お買い上げ店またはお近くのソニー業務用製品のご相談窓口までお問い合わせください。詳しくは、本書に記載されている「保証書とアフターサービス」をご覧ください。

この無線機器は 2.4GHz 帯を使用します。変調方式として DS-SS 変調方式を採用し、与干渉距離は 30m です。

・ ネットワークカメラをご使用されることにより、インターネットを通じて容易にカメラ映像にアクセスすることができます。一方で第三者によりネットワークを通じてモニタリング画像および音声を閲覧、使用等される可能性があります。ネットワークカメラの設置およびご利用については、被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、お客様の責任で行ってください。
・ ネットワークカメラへのアクセス権限は、ユーザー名およびパスワードを設定することにより行われます。それ以上のカメラによる認証作業は行われません。

特長

本機は、Web サーバーを内蔵したネットワークカメラです。
本機の特長は次のとおりです。

Web ブラウザによるモニタリング

コンピューターの Web ブラウザを使って、カメラの映像・音声をリアルタイムでモニタリングできます。

MPEG4 映像圧縮方式を採用

映像圧縮方式に MPEG4 を採用し、毎秒 30 フレーム（QVGA サイズ）のスムーズな動画を配信できます。また、映像圧縮方式を JPEG に設定すれば、Motion JPEG による映像配信もできます。

VGA サイズの画像を配信

1/4 型 VGA 対応の CMOS センサーの採用により、VGA サイズで高画質の画像を配信することができます。（VGA サイズの場合は、30 fps 以下のフレームレートになります。）

マイク内蔵

標準装備でマイク（モノラル）を内蔵しています。また、プラグインパワー方式（基準電圧 2.4V DC）のマイク入力端子（ミニジャック、モノラル）に市販のマイクを接続することもできます。

外部スピーカーを接続可能

ライン出力端子 (ミニジャック、モノラル) を装備しています。カメラに市販のアンプ内蔵スピーカーを接続すれば、ネットワークを経由してスピーカーから音声を出力できます。

動体検知に連動した画像配信、周辺機器の制御

動体検知機能に連動してあらかじめ設定したアドレスにメールを送信したり（MPEG4 モード時）、FTP サーバーへ定期的に画像を配信したり（JPEG モード時）することができます。

ワイヤレスネットワーク対応（SNC-M1W のみ）

無線 LAN 対応により、わずらわしいネットワークケーブルの配線が不要になります。

携帯電話によるモニタリング

携帯電話から静止画がモニタリングできます。
（対応する携帯電話については、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にお問い合わせください。）

IP セットアッププログラムを付属

簡単にカメラのネットワーク設定を行うことができる IP セットアッププログラムを付属しています。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、ネットワークカメラ SNC-M1 または SNC-M1W をコンピューターから操作する方法を説明しています。
このユーザーガイドは、コンピューターの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。
ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピューターの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。
また、このユーザーガイドでは SNC-M1 と SNC-M1W を一緒に説明しています。
説明中の画面は主に SNC-M1W を使用しています。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを完全に再現できないことがありますが、ご了承ください。

設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

必要なシステム構成

カメラの映像を見たり、制御したりするコンピューターには、次の動作環境が必要です。

プロセッサー

Pentium III、1 GHz 以上
（Pentium 4、2 GHz 以上を推奨）

RAM

256 MB 以上

OS

Windows 2000/XP

Web ブラウザ

Internet Explorer Ver. 5.5 または Ver. 6.0

準備

この章では、カメラを設置・接続した後、映像をモニターする前に管理者が行う準備について説明しています。

カメラに IP アドレスを割り当てる

ネットワークを介してカメラに接続するためには、カメラに新しい IP アドレスを割り当てる必要があります。初めてカメラを設置したときは、カメラに IP アドレスを割り当ててください。
IP アドレスの割り当ての方法には、次の 2 とおりがあります。

・付属の CD-ROM に収録されているセットアッププログラムを使う (下記)
・ARP (Address Resolution Protocol) コマンドを使う（41 ページ）

ここでは、付属のセットアッププログラムを使って IP アドレスを割り当て、ネットワーク設定をする方法を説明します。

操作の前に、付属の設置説明書の「接続」をご覧になって、カメラをネットワークに接続してください。

IP アドレスを設定するときは、ネットワークケーブルで接続してください（SNC-M1W のみ）。

割り当てる IP アドレスについては、ネットワークの管理者にご相談ください。

セットアッププログラムを使ってカメラに IP アドレスを設定する

1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れる。
しばらくすると、画面に CD-ROM の内容が表示されます。

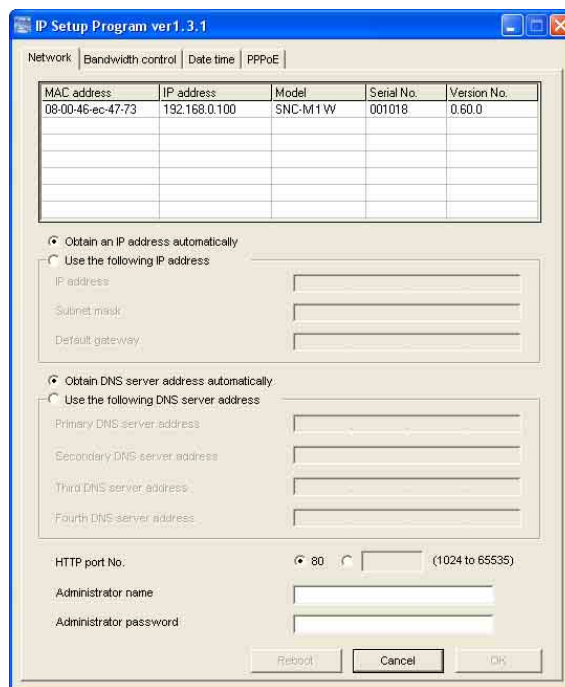
2 IP Setup Program の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「IP Setup Program」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

5 IP Setup Program を起動する。
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されている SNC-M1 または SNC-M1W カメラを検出してリスト表示します。

6 リストから IP アドレスを割り当てたいカメラをクリックして選択する。

MAC address	IP address	Model	Serial No.	Version No.
08-00-46-ec-47-73	192.168.0.100	SNC-M1W	001018	0.60.0

選択されたカメラのネットワーク設定状況が画面に表示されます。

補足

工場出荷時のカメラのネットワークは次のように設定されています。

IP address（IP アドレス）：192.168.0.100
Subnet mask（サブネットマスク）：255.0.0.0

無線 LAN 設定（SNC-M1W のみ）

タイプ：　アドホック
SSID：　snc-mw
チャンネル：　11ch
WEP：　なし

7 IP アドレスを設定する。

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するときは

［Obtain an IP address automatically］を選択します。

IP address（IP アドレス）、Subnet mask（サブネットマスク）、Default gateway（デフォルトゲートウェイ）が自動的に割り当てられます。

固定 IP アドレスを設定するときは

［Use the following IP address］を選択し、IP address、Subnet mask、Default gateway 欄にそれぞれの値を入力します。

8 サーバーアドレスを設定する。

DNS サーバーアドレスを自動取得するには

［Obtain DNS server address automatically］を選択します。

DNS サーバーアドレスを自動取得しないときは

［Use the following DNS server address］を選択してから、Primary DNS server address および Secondary DNS server address 欄に DNS サーバーアドレスを入力します。

ご注意

本機では Third DNS server address、Fourth DNS server address 欄は入力しても無効です。

9 HTTP ポート番号を設定する。

通常は、HTTP port No. の［80］を選択します。
［80］以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

10 Administrator name と Administrator password 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

工場出荷時は、両方とも「admin」に設定されています。

ご注意

この画面では、管理者の名前とパスワードの変更はできません。
変更のしかたは、「ユーザー設定をする －ユーザー設定メニュー」（30 ページ）をご覧ください。

11 正しく設定されていることを確認してから［OK］をクリックする。

「Setting OK」が表示されれば、IP アドレスの設定は終了です。

12 直接カメラにアクセスするには、リスト上のカメラ名をダブルクリックする。

MAC address	IP address	Model	Serial No.	Version No.
08-00-46-ec-47-73	192.168.0.100	SNC-M1W	001018	0.60.0

「ネットワークカメラ SNC-M1」または「ネットワークカメラ SNC-M1W」のウェルカムページが表示されます。

ご注意

IP アドレスが正しく設定されていないと、手順 12 の操作をしてもウェルカムページが表示されません。この場合は IP アドレスの設定をやり直してみてください。

Web ブラウザからカメラにアクセスする

カメラに IP アドレスを割り当てたら、実際に Web ブラウザからカメラにアクセスできることを確認します。
Web ブラウザには、Internet Explorer をお使いください。

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、カメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。

アドレス(D) http://192.168.0.100

補足

IP アドレスは、IP Setup program の Network タブに表記された IP アドレスを入力してください。

「ネットワークカメラ SNC-M1」または「ネットワークカメラ SNC-M1W」のウェルカムページが表示されます。

2 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。

メインビューアーが正しく表示されれば IP アドレスの割り当ては完了です。

準備

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

[Enter] ボタンをクリックすると「セキュリティ警告」が表示されます。[はい] をクリックすると、ActiveX コントロールがインストールされ、メインビューアーが表示されます。

ご注意

- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動設定にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動設定を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- Windows 2000、Windows XP をお使いの場合は、ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適化されています。

ウェルカムページを正しく表示させるには

ウェルカムページを正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを［中］以下に設定してください。

1. Internet Explorer のメニューバーから［ツール］—［インターネットオプション］—［セキュリティ］タブの順に選択する。
2. [インターネット] アイコン(本機をインターネット環境で使用しているとき)、または［イントラネット］アイコン（本機をイントラネット環境で使用しているとき）をクリックする。
3. レベルバーを操作して［中］以下にする。(レベルバーが表示されていない場合は、[既定のレベル］ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。)

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合

- コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示される Web ページは Java スクリプトを使用しています。ご使用になるコンピューターでウィルス対策ソフトウェアをお使いの場合には、Web ページが正しく表示されない場合があります。

管理者による基本設定を行う

本機は、出荷時の状態でログインするだけでカメラの映像がモニターできますが、カメラの設置場所やネットワーク環境、カメラの用途などに合わせてさまざまな機能を設定できます。
日常、カメラの映像をモニターする前に、管理者が設定しておいたほうがよい設定項目は、次のとおりです。

設定内容	設定メニュー
カメラから配信する映像のフォーマット（MPEG4 か JPEG）を設定する	「動作モード」（24 ページ）
カメラから配信する映像の画質を選択する	「MPEG4 タブ」（25 ページ） 「JPEG タブ」（25 ページ）
カメラから配信する映像のサイズを選択する	「画像サイズ」（24 ページ）
カメラのマイクからの音声を配信するかどうかを選択する	「マイク設定」（24 ページ）
カメラの日付と時刻をコンピューターに合わせる	「日付／時刻タブ」（22 ページ）
カメラのモニター画像をメールに添付して送信するための設定をする	「メール（SMTP）設定メニュー」（31 ページ）
カメラのモニター画像を FTP サーバへ送信するための設定をする	「FTP クライアント設定メニュー」（33 ページ）
ユーザーのカメラへのアクセス権を設定する	「ユーザー設定メニュー」（30 ページ）

カメラの操作

この章では、Web ブラウザを使ってカメラ映像をモニターする方法を説明しています。Web ブラウザには Internet Explorer をお使いください。

カメラの設定は管理者が行います。設定のしかたは「カメラの設定」（19 ページ）をご覧ください。

ホームページへログインする －ウェルカムページ

ユーザーとしてログインする

1 コンピューターで Web ブラウザを起動し、モニターしたいカメラの IP アドレスを IP アドレス欄に入力する。

アドレス(D) http://192.168.0.100

「ネットワークカメラ SNC-M1」または「ネットワークカメラ SNC-M1W」のウェルカムページが表示されます。

2 [Enter] をクリックする。
メインビューアーが表示されます。

メインビューアーからカメラを操作してください。

ご注意

ウェルカムページが正しく動作しないときは、Internet Explorer のセキュリティレベルが [中] より高くなっている可能性があります。「ウェルカムページを正しく表示させるには」（12 ページ）をご覧になって、セキュリティレベルを確認してください。

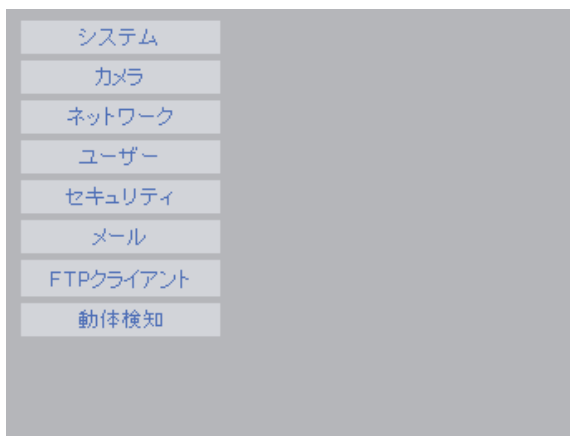
管理者用の設定画面を直接表示する

管理者がカメラの設定を行うとき、ウェルカムページから直接、設定画面を表示することができます。

1 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。
次のダイアログが表示されます。

2 管理者用のユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

管理者用のユーザー名とパスワードは、工場出荷時には「admin」が設定されています。ユーザー名とパスワードは、管理者設定メニューのユーザー設定メニューで変更できます（30 ページ）。

管理者設定メニューが表示されます。

Viewer について

初めてメインビューアーにアクセスするときに、ActiveX コントロールをインストールする必要があります。

初めてカメラのメインビューアーを表示するときは

初めて本機にログインする (「Enter」をクリックしてメインビューアーに入る) と「セキュリティ警告」が表示されます。「はい」をクリックして ActiveX コントロールをインストールしてください。この ActiveX コントロールを使用するとビューアーのすべての機能が使用できます。

ご注意

- Internet Explorer のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動設定にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動設定を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- Windows 2000、Windows XP をお使いの場合は、ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

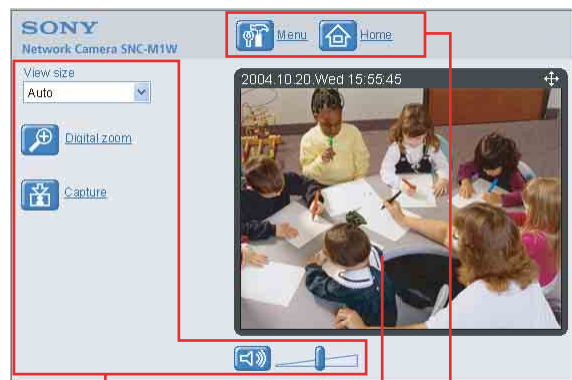
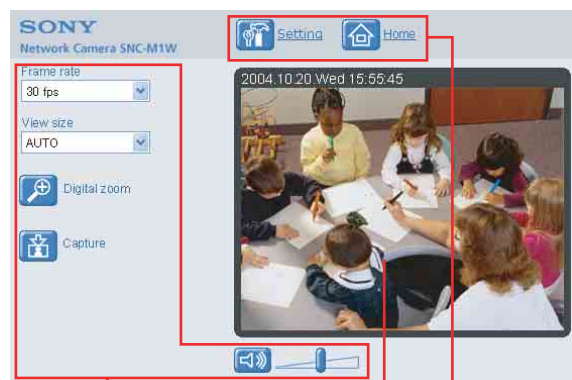
補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適化されています。

メインビューアーの構成

ここでは、メインビューアーの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

メインビューアー

MPEG4 時 *

JPEG 時 *

＊カメラの動作モード設定についてはカメラ設定メニュー（24 ページ）をご覧ください。

カメラの操作

メインメニュー

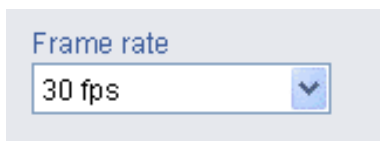
Setting

管理者用の設定メニューを表示します。（「管理者設定メニューの基本操作」19 ページ）
この操作は、管理者としてログインした場合のみ可能です。

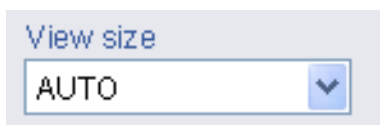
Home

ウェルカムページを表示します。

カメラ操作部

Frame rate（フレームレート）

（カメラの動作モード（24 ページ）が [JPEG] に設定されているときのみ表示されます。）

配信する画像のフレームレートを選択します。（17 ページ）

View size（画像表示サイズ）

画像の表示サイズを選択します。（17 ページ）

Digital zoom（デジタルズーム）

デジタルズームのサイズを変えるときクリックします。（17 ページ）

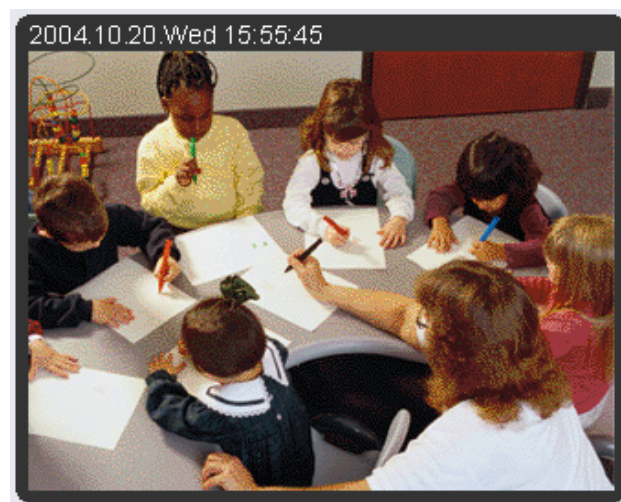
Capture（キャプチャー）

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピューターに保存するときクリックします。（18 ページ）

（音量）

（カメラのマイク設定（24 ページ）が [オン] に設定されているときのみに表示されます。）

のバー部分をドラッグすると、音量が調整されます。
アイコンをクリックすると、アイコンが に変わり、音声の出力が止まります。
もう一度音声を出力するには、 をクリックします。

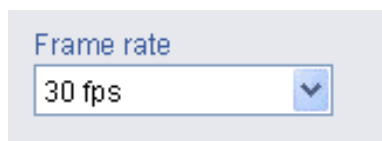
モニター画面

カメラの映像を表示します。画面上部に日付と時刻が表示されます。

カメラ映像をモニターする

ここでは、メインビューアーのモニター画面でカメラ映像を見る方法を説明します。

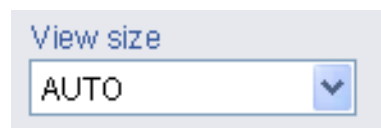
カメラ映像をモニターする

1 ホームページにログインし、メインビューアーを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（14 ページ）をご覧ください。

2 フレームレートを選ぶ。（カメラの動作モードが [JPEG] のときのみ）

［Frame rate］リストボックスをクリックして画像を配信するフレームレートを選択します。選択可能なフレームレートは、［1 fps］、［2 fps］、［3 fps］、［4 fps］、［5 fps］、［6 fps］、［8 fps］、［10 fps］、［15 fps］、［20 fps］、［25 fps］、［30 fps］です。“fps”は 1 秒間に配信されるフレーム数を示します。
［30 fps］を選択すると、接続されている回線に可能な最高速度（最大 30fps）で配信されます。

ご注意

選択されたフレームレートは配信されるフレームの最大値を示します。
ご使用のコンピューターや、接続されているネットワーク環境、カメラの設定（画像サイズや画質）により実際のフレームレートは異なります。

3 画像の表示サイズを選ぶ。

［View size］リストボックスをクリックして［AUTO］、［640 × 480］、［320 × 240］、［160 × 120］の 4 種類から画像サイズを選択します。
［AUTO］を選択すると、カメラ設定メニューの「画像サイズ」（24 ページ）で選択した画像サイズで表示されます。

モニター画像をズームする

1 デジタルズームアイコンをクリックする。

2 モニター画像の拡大したい場所をクリックする。
クリックした場所を中心に、画像が約 2 倍に拡大されます。

デジタルズームアイコンは に変わります。

3 拡大を解除するには、 アイコンをクリックする。

モニター画像をキャプチャーする

モニターしているカメラ映像を静止画像としてキャプチャーし、コンピューターに保存できます。

モニター画像をキャプチャーする

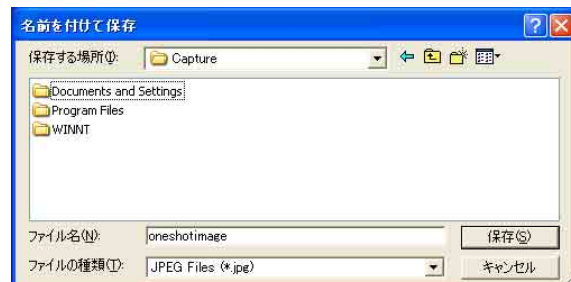
1 モニター画面でカメラ映像をモニターする。

2 キャプチャーアイコンをクリックする。
クリックした瞬間の静止画像がキャプチャーされ、モニター画面に静止画像が表示されます。

3 静止画像を解除するには、[Cancel] または [Close] をクリックする。

キャプチャーした画像を保存する

1 モニター画像をキャプチャーする。

2 [Save] ボタンをクリックする。
[名前を付けてファイルを保存] ダイアログが表示されます。

3 [ファイルの種類] として、[JPEG] または [bmp] を選択する。

4 [ファイル名]と[保存する場所]を指定してから、[保存]をクリックする。

カメラの設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。
カメラの画像をモニターする方法は、「カメラの操作」（14 ページ）をご覧ください。

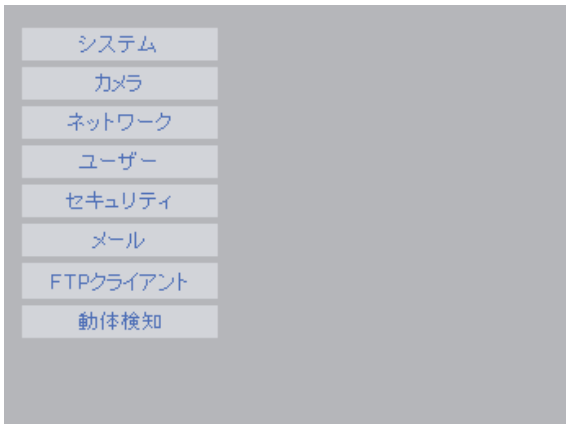
この章では、はじめに管理者設定メニューの設定の際の基本操作を説明し、その後、メニューの設定項目をひとつずつ説明します。

管理者設定メニューの基本操作

管理者設定メニューでは、それぞれのユーザーの使用状態に合わせて本機のすべての機能を細かく設定することができます。
ウェルカムページまたはメインビューアーの [Setting] ボタンをクリックすると管理者設定メニューが表示されます。

管理者設定メニューの設定のしかた

1 ホームページにログインし、ウェルカムページを表示する。
ログインのしかたは、「ユーザーとしてログインする」（14 ページ）をご覧ください。

2 ウェルカムページの [Setting] をクリックする。
認証ダイアログが表示されます。管理者のユーザー名とパスワードを入力すると、管理者設定メニューが表示されます。
管理者のユーザー名とパスワードは工場出荷時には [admin] が設定されています。

手順 **2** の代わりに、次のようにして表示することもできます。
①ウェルカムページの [Enter] をクリックしてメインビューアーを表示する。
②メインビューアーの Setting アイコンをクリックする。

3 管理者設定メニュー左側のメニュー名（例 : システム）をクリックする。
クリックした設定メニューが表示されます。

例 :「システム」設定メニュー

4 設定メニュー上部のタブを選択し、タブ内の各設定項目の設定を行う。

例 :「システム」設定メニューの「日付 / 時刻」タブ

各設定メニューのタブと設定項目について詳しくは、21 ～ 35 ページをご覧ください。

5 設定が終わったら、[OK] をクリックする。
設定した内容が有効になります。

設定した内容を無効にして元の状態に戻すときは、[Cancel] をクリックします。

各設定メニューの共通ボタン

設定ページには、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。ボタンの機能は、どの設定ページでも同じです。

OK

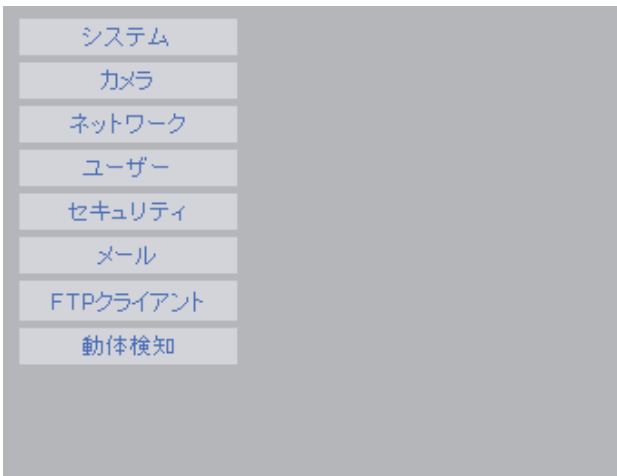
設定した内容を有効にするとき、クリックします。

Cancel

設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

設定メニュー全般についてのご注意

- 設定メニューで、ユーザー名など、コンピューターから入力する文字に、半角カタカナは使用できません。
- 設定メニューで設定を変更し、すぐにカメラの電源を切る場合は、10 秒以上経過してから電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。

管理者設定メニューの構成

システム

システム設定メニューを表示します。(「システム設定を行う －システム設定メニュー」21 ページ)

カメラ

カメラ映像や音声に関する設定を行うカメラ設定メニューを表示します。(「カメラ映像や音声の設定を行う－カメラ設定メニュー」24 ページ)

ネットワーク

ネットワーク接続のための設定を行うネットワーク設定メニューを表示します。(「ネットワークを設定する－ネットワーク設定メニュー」26 ページ)

ユーザー

ログインするときのユーザー名やパスワードの設定を行うユーザー設定メニューを表示します。(「ユーザー設定をする －ユーザー設定メニュー」30 ページ)

セキュリティ

接続を許可するコンピューターを指定するセキュリティ設定メニューを表示します。(「セキュリティ設定をする－セキュリティ設定メニュー」30 ページ)

メール（SMTP）

メール送信を行うためのメール（SMTP）設定メニューを表示します。(「メールを送る－メール (SMTP) 設定メニュー」31 ページ)

FTP クライアント

FTP サーバーへ映像ファイルなどを送信するための設定を行う FTP クライアント設定メニューを表示します。(「FTP サーバーへ画像を送信する（JPEG モード時のみ）－ FTP クライアント設定メニュー」33 ページ)

動体検知

カメラ内蔵の動体検知機能の設定を行う動体検知設定メニューを表示します。(「動体検知機能を設定する－動体検知設定メニュー」35 ページ)

システム設定を行う
－システム設定メニュー－

管理者設定メニューの［システム］をクリックすると、システム設定メニューが表示されます。
このメニューでは本機の基本設定を行います。
システム設定メニューは [システム]、[日付／時刻]、[初期化]、[システムログ]、[アクセスログ] の 5 つのタブから構成されます。

システムタブ

タイトルバー

本機のタイトルバー名を入力します。Web ブラウザのタイトルバーにここに入力された文字が表示されます。
半角で 32 文字、全角で 16 文字まで入力可能です。

シリアル番号

本機のシリアル番号が表示されます。

ソフトウェアバージョン

本機のソフトウェアのバージョンが表示されます。

配色

メインビューアーの配色を［ライトブルー］、［ブルー］、［メタル］、の中から選択できます。

ライトブルー

ブルー

メタル

ご注意

・ウェルカムページや管理設定ページの配色は変更されません。
・変更した配色の設定をメインビューアーに反映するには、一度ウェルカムページに戻ってからログインし直してください。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

日付／時刻タブ

現在時刻

本カメラに設定されている日付／時刻を表示します。

ご注意

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

コンピューターの現在時刻

使用しているコンピューターの日付／時刻がテキストボックスに表示されます。

日付／時刻フォーマット

メインビューアーに表示する日付／時刻の書式をリストボックスから選択します。
［年―月―日 時：分：秒］、［月―日―年 時：分：秒］、［日―月―年 時：分：秒］から選択できます。

日時設定

日付／時刻の設定方法を選択します。

[変更なし]：カメラの日付／時刻を設定しない場合に選択します。

[PC 同期]：カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに選択します。

[手動設定]：カメラの日付／時刻を手動設定するときに選択します。
各ボックスのドロップダウンリストで、年（下 2 桁）、月、日、時、分、秒を選択します。

[NTP 同期]：カメラの日付／時刻を NTP（Network Time Protocol）サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる場合に選択します。この場合、[NTP サーバー名] と [同期間隔] を設定してください。

NTP サーバー名

NTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。半角文字で 64 文字以内で入力します。

同期間隔

NTP サーバーに現在時刻を問い合わせし、カメラとの時刻調整を行う間隔を設定します。1 ～ 24 時間の間で設定できます。実際にはこの間隔は目安であり、多少の差異があります。

ご注意

ネットワークの環境によって、設定される時刻は多少ずれることがあります。

タイムゾーン選択

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。
リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。
日本の場合は、[(GMT+09:00) Osaka、Sapporo、Tokyo を選択します。

夏時間の調整をする

この項目にチェックすると、選択したタイムゾーンの夏時間に合わせて時刻の修正が行われます。

ご注意

- [タイムゾーン選択] で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。
- 夏時間の調整は [日時設定] で [NTP 同期] を選択した場合のみ機能します。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

初期化タブ

再起動

強制的にカメラを再起動するときに使います。
［Reboot］をクリックすると、「強制的にカメラを再起動します。よろしいですか？」と表示されます。［OK］を

クリックするとカメラが再起動します。再起動には約２分かかります。

工場出荷設定

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。
［Factory default］をクリックすると、「カメラを出荷時の設定に戻します。よろしいですか？」と表示されます。
[OK] をクリックすると、カメラのネットワークインジケーターとパワーインジケーターが点滅し始めます。工場出荷時の設定が終了すると、カメラが自動的に再起動します。カメラが再起動するまではカメラの電源を切らないでください。

補足

カメラ本体のリセットスイッチを押しても出荷時の設定に戻すことができます。詳しくは、付属の設置説明書をご覧ください。

ご注意

カメラを工場出荷時の設定に戻すと設定した IP アドレスも消去されます。再起動後、IP アドレスも設定し直してください（9 ページ）。

バージョンアップ

カメラのソフトウェアのバージョンアップを行うときに使用します。[参照] をクリックして、バージョンアップのためのファイルを指定し、[OK] をクリックすると「カメラのソフトウェアのバージョンアップを開始します。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックするとソフトウェアのバージョンアップを開始します。
バージョンアップが終了するとカメラが再起動します。

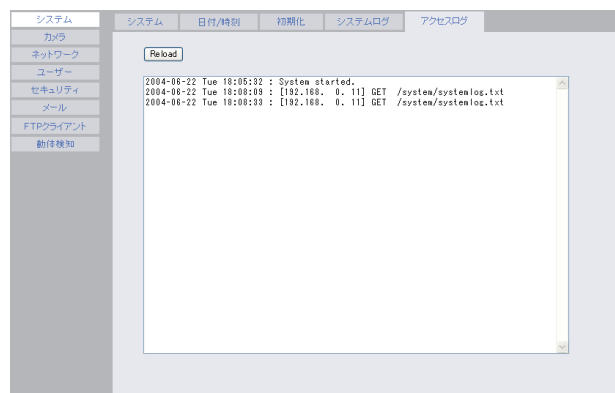
ご注意

- 本カメラ用のバージョンアップファイル以外のものを使用しないでください。故障の原因となります。
- バージョンアップが終了するまでは、カメラの電源を切らないでください。

システムログタブ

システムログ

カメラのソフトウェアの動作に関する情報が記述されます。トラブルが発生した時に役立つ情報などが記録されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

アクセスログタブ

アクセスログ

カメラのアクセス履歴が表示されます。
[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

カメラ映像や音声の設定を行う

−カメラ設定メニュー

管理者設定メニューの［カメラ］をクリックすると、カメラ設定メニューが表示されます。
このメニューではカメラ機能の設定を行うことができます。
カメラ設定メニューは [共通]、[MPEG4]、[JPEG]、[初期化] の 4 つのタブで構成されます。

共通タブ

動作モード

カメラ映像の出力フォーマットを選択します。
[MPEG4] または [JPEG] を選択します。

画像サイズ

カメラから出力される画像サイズを選択します。
［640 × 480（VGA）］、［320 × 240（QVGA）］、［160 × 120（QQVGA）］から選択できます。

画像切り出し

画像サイズが [640 × 480 (VGA)] のとき、必要な部分のみの画像を切り出してコンピューターに表示できます。必要な部分のみを表示させることにより、配信するデータ量を小さくし、回線の負担を軽減し、フレームレートを上げることができます。

画像の切り出しを行うときは［オン］、切り出しを行わないときは［オフ］を選択します。

ご注意

画像切り出しを [オン] にすると動体検知機能は動作しなくなります。

画像の切り出しかた

1 [画像サイズ] を [640 × 480 (VGA)] に設定する。
[画像切り出し] が表示されます。

2 [画像切り出し] の [オン] を選択し、[Area setting] をクリックする。
画像切り出し設定画面の中に切り出し枠が表示されます。

3 切り出し範囲を設定する。
切り出し枠をクリックすることで枠を移動したり、大きさを変更したりすることができます。枠で囲まれたエリアが切り出し範囲になります。

4 画面下部の［OK］をクリックする。
切り出した画像がメインビューアーに表示されます。

5 画像を閉じるには、画面右上の ❎ ボタンをクリックする。

フリッカーレス

蛍光灯照明によるちらつきが映像に見られる場合、［オン］にするとちらつきを抑えることができます。

鮮鋭度

鮮鋭度を［-3］～［3］の 7 段階から選択します。
［3］を選択すると最高鮮鋭度の画像になります。

マイク設定

カメラに内蔵のマイクまたは マイク入力端子から入力される音声を配信するかどうかを設定します。カメラに入力される音声を配信したい場合には [オン] を設定します。

マイク音量

カメラの内蔵マイクや マイク入力端子から入力される音量レベルを設定します。[− 10] ～ [＋ 10] の範囲で設定できます。

音声ビットレート

カメラに内蔵のマイクまたは m マイク入力端子から入力される音声を配信する場合のビットレートを選択します。選択可能なビットレートは [40、32、24、16kbps] です。

ご注意

初期設定から音声設定を変更したとき、まれに音声にノイズが発生する場合があります。設定が有効になっていない可能性がありますので、再度 [OK] ボタンを押して設定を有効にしてください。

スピーカー出力

同梱の CD-ROM に内蔵されている SNC audio upload tool を使用して、お使いのコンピューターの音声入力端子に入力された音声を、カメラのライン出力端子に接続されるスピーカー (アクティブスピーカーなど) に出力するかどうかを設定します。
[オン] に設定すると、SNC audio upload tool からの音声データ通信を受け付けます。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」(20 ページ)をご覧ください。

MPEG4 タブ

フレームレート

MPEG 映像のフレームレートを設定します。
設定可能なフレームレートは 1、2、3、4、5、6、8、10、15、20、25、30 fps です。単位は"fps"(1 秒間に配信されるフレーム数) を示します。

ビットレート

MPEG 映像配信の 1 回線あたりのビットレートを設定します。
設定可能なビットレートは 64、128、256、384、512、768、1024、1536、2048 kbps です。

ご注意

- 設定されたフレームレートやビットレートは目標値の目安となるものです。実際に配信されるフレームレートやビットレートは画像サイズ設定、撮影シーン、回線状況などによって設定値とは異なる場合があります。
- ワイヤレスや低帯域ネットワーク接続時、カメラ画像・音声の設定によりまれに音声ノイズが発生する場合があります。ご利用のネットワーク帯域に合わせて適切な値に設定してください。

フレームレート優先

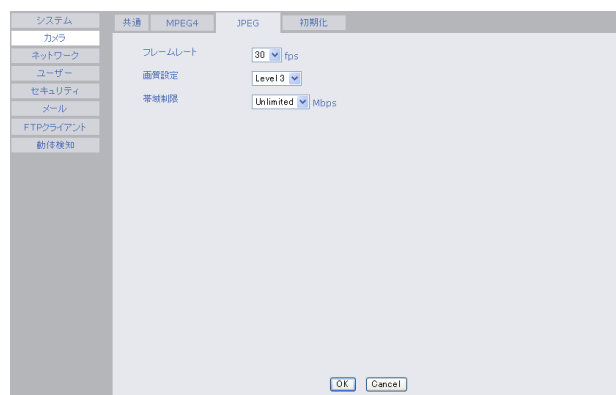
ネットワークの状況によっては映像のフレームレートが落ちる現象が起きます。[オン] を選択すると、フレームレートを落とさないようにビットレートを自動で調節します。

ご注意

最大のフレームレートは、[フレームレート] に設定されている値となります。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」(20 ページ)をご覧ください。

JPEG タブ

フレームレート

コンピューターで見ることができる JPEG 映像の最大のフレームレートを設定します。
設定可能なフレームレートは 5、6、8、10、15、20、25、30 fps です。

画質設定

JPEG 映像の画質を設定します。
[Level1] 〜 [Level5] まで選択できます。
[Level5] を選択すると最高画質になります。

ご注意

ワイヤレスなどの低帯域ネットワーク接続時、カメラ画像・音声の設定によりまれに音声ノイズが発生する場合があります。ご利用のネットワーク帯域に合わせて [フレームレート] や [画質設定] を設定してください。

帯域制限

動作モードが JPEG に設定されている場合に、カメラが出力するネットワークの帯域を制限することができます。
選択できる帯域は 0.5、0.6、0.7、0.8、0.9、1.0、2.0、3.0、4.0、Unlimited Mbps です。帯域を制限しないときには [Unlimited] を選択します。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

初期化タブ

カメラ初期化

[Reset] をクリックすると、ダイアログが表示され「カメラ設定が初期化されます。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックすると、カメラ設定メニューの設定が出荷時の設定に戻ります。

ネットワークを設定する
－ネットワーク設定メニュー－

管理者設定メニューの［ネットワーク］をクリックすると、ネットワーク設定メニューが表示されます。
このメニューでは本機とコンピューターをネットワーク接続するためにネットワーク設定を行います。
ネットワーク設定メニューは [ネットワーク]、[ワイヤレス]、[IP アドレス通知] の 3 つのタブで構成されます。

ネットワークタブ

本機をネットワークケーブルで接続するための設定を行います。

MAC アドレス

カメラの MAC アドレスを表示します。

IP アドレスを自動的に取得する（DHCP）

ネットワークに DHCP サーバーが設置されており、IP アドレスが DHCP サーバーから割り振られる環境の場合に選択します。IP アドレスが自動的に割り当てられます。

ご注意

［IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)］に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

次の IP アドレスを使う

固定 IP アドレスを設定する場合、選択します。

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスク値を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウエイを入力します。

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する

DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。[IP アドレスを自動的に取得する（DHCP）] を選択したときのみ設定可能です。

ご注意

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] に設定する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼動していることを確認してください。

次の DNS サーバーのアドレスを使う

DNS サーバーの IP アドレスに固定のアドレスを使用する場合、選択します。

プライマリー DNS サーバー

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバー

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

HTTP ポート番号

通常は [80] を選択します。[80] 以外のポート番号に設定するときは、テキストボックスを選択し、ポート番号 1024 ～ 65535 を入力します。

ご注意

ネットワーク設定ページやセットアッププログラムで HTTP ポート番号を [80] 以外のポート番号に設定したときは、ブラウザのアドレス欄に以下のように入力してカメラにアクセスしてください。

例：出荷時の IP アドレスにポート番号 8000 番を設定した場合

アドレス(D) http://192.168.0.100:8000/

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

ワイヤレスタブ（SNC-M1W のみ）

本機をワイヤレスネットワークで接続するための設定を行います。

SSID

アクセスする特定のワイヤレスネットワークを識別するサービスセット ID です。最大 32 文字の ASCII テキスト文字（半角英数、一部記号）で入力できます。
セキュリティを確保するため、工場出荷時の設定値から変更してご使用ください。

タイプ

ネットワークの接続タイプ [アドホック] または [インフラストラクチャ] を選択します。パソコンと直接接続する場合は [アドホック] を、アクセスポイントや無線ルーターを経由して接続する場合には ［インフラストラクチャ］ を指定します。[アドホック] を選択した場合は、チャンネルを指定してください。

チャンネル

アドホック接続をするときの通信チャンネルを設定します。

補足

接続するパソコンとカメラのチャンネルを同じ値に設定してください。

ご注意

通信圏内で稼動中のネットワークが使用しているチャンネルを確認し、使用の少ないチャンネルを選択すると、干渉の少ない無線通信が期待できます。

WEP

WEP（Wired Equivalent Privacy）暗号化キーを使用するときは［On］を、使用しないときは［Off］を選択します。[Off] に設定した場合は、［WEP キー］で設定した値は無効となります。

WEP キー

WEP キーを指定します。最大 4 つまで設定できます。WEP キーの長さは、40 または、104 ビット長です。104 ビットの WEP キーでは、40 ビットのキーよりもセキュリティレベルが高くなります。WEP キー形式は、16 進文字（0-9、A-F）または ASCII テキスト文字（半角英数、一部記号）のどちらでも入力可能です。
[インフラストラクチャ] の場合はアクセスポイントと同じキーに、[アドホック] の場合は通信先のクライアントと同じキーに設定する必要があります。

ご注意

- ワイヤレス接続を有効にするには、ネットワークケーブルを抜き、カメラの電源を入れてください。
- ワイヤレス接続と、ネットワークケーブルを使った有線（ワイヤード）接続を同時に使うことができません。

IP アドレス通知タブ — IP アドレス通知を行う

ネットワークタブで DHCP 設定を [オン] にした場合、SMTP や HTTP などのプロトコルを使用してネットワーク設定の完了通知を送ることができます。

メール通知

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時にメールを送信することができます。

SMTP サーバー名

メール送信に使用する SMTP（送信メール）サーバー名または SMTP サーバーの IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

認証設定

メールを送信するときに要求される認証方法を選択します。

[なし]： メール送信時に認証が必要がない場合に選択します。

[SMTP 認証]： メール送信時に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

[POP before SMTP 認証]： メール送信時に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP（受信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要となります。

ユーザー名 、パスワード

メールアカウントを持っているユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。この設定はメールを送信するSMTP サーバーが認証を行う場合に必要となります。

宛先アドレス

送信先（受取人）のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。送信先は 1 つのみです。

管理者アドレス

カメラ管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名 / 題名を半角 64 文字以内で入力します。

本文

メールの本文を半角 384 文字以内、全角 192 文字以内で入力します。後述の特殊タグを使用して、取得した IP アドレスなどの情報を記入することができます。

HTTP 送信

[オン] を選択すると、DHCP 設定完了時に HTTP サーバーにコマンドを出力させることができます。コマンドを受け取る側の HTTP サーバーに残るアクセスログを参照したり、CGI による外部プログラムを起動させるなど、便利なシステムを構築することが可能となります。

URL

HTTP コマンドを送信するための URL を指定します。URL は通常以下の形式で 256 文字以内で記述します。

http://ip_address[:port]/path?parameter

ip_address：接続すべきホストの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
[:port]：接続するポート番号を入力します。通常の HTTP サーバーは Well-known ポートである 80 番を使用しますが、この場合には省略することができます。
path：コマンド名称を入力します。
parameter：必要があればコマンドのパラメーターを入力します。パラメーターには後述の特殊タグを入力することができます。

プロキシサーバー名

プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信する際に設定します。プロキシサーバー名またはその IP アドレスを半角 64 文字以内で入力します。

プロキシポート番号

プロキシサーバー経由で HTTP コマンドを送信するためのポート番号を設定します。1024 ～ 65535 の値を設定することができます。

送信メソッド

HTTP のメソッドを選択します。サポートされているメソッドは GET、POST の 2 種類です。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

特殊タグについて

IP アドレス通知には、DHCP で取得した IP アドレスなどを通知できるようにするため特殊タグを使用することができます。これはメール機能の本文中、HTTP の URL のパラメーター部分に入力することができます。特殊タグには以下の 5 種類があります。

<IP>

このタグを使用すると DHCP 設定後の IP アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<HTTPPORT>

このタグを使用すると設定されているカメラのポート番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MACADDRESS>

このタグを使用すると DHCP で IP アドレスを取得したインターフェースの MAC アドレスを本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<MODELNAME>

このタグを使用すると本機のモデル名称（SNC-M1 または SNC-M1W）を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

<SERIAL>

このタグを使用することで本機のシリアル番号を本文中やパラメーターに埋め込むことができます。

ユーザー設定をする
－ユーザー設定メニュー

管理者設定メニューの［ユーザー］をクリックすると、ユーザー設定メニューが表示されます。
このメニューでは、管理者（Administrator）と最大9ユーザー（User 1 ～ User 9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのアクセス権が設定できます。

Administrator, User 1 ～ User 9

各列に [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認] を設定します。

ユーザー名

ユーザー名を 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワード

パスワードを 5 ～ 16 文字の半角英数字で入力します。

パスワードの確認

パスワードの確認のために、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

ビューアー認証

メインビューアーを表示するときにユーザー認証を行うかどうかの設定を行います。
[オン] を選択したときは、認証ユーザーに合った設定でメインビューアーが表示されます。[オフ] を選択したときは、認証をせずにメインビューアーを表示することができます。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

セキュリティ設定をする
－セキュリティ設定メニュー

管理者設定メニューの［セキュリティ］をクリックすると、セキュリティ設定メニューが表示されます。
このメニューでは、本機にアクセスできるコンピューターを制限するセキュリティ機能を設定します。

セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用するときは、[オン] を選択します。
セキュリティ機能を使用しないときは、[オフ] を選択します。

デフォルトポリシー

下記のネットワークアドレス／サブネット 1 ～ネットワークアドレス／サブネット 10 に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を［許可］にするか、［拒否］にするかを設定します。

ネットワークアドレス／サブネット 1 ～ ネットワークアドレス／サブネット 10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス / サブネットマスク値を入力します。
10 種類のネットワークアドレス / サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは 8 ～ 32 を半角で入力します。
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで［許可］、または［拒否］を設定できます。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば 255.255.255.0 のサブネットマスクに対しては 24 となります。

カメラの設定

「192.168.0.0 ／ 24」、「許可」と設定すれば 192.168.0.0 ～ 192.168.0.255 の IP アドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

ご注意

アクセス制限を［拒否］に設定された IP アドレスのコンピューターからでも、表示される認証画面でユーザー設定ページの Administrator（管理者）欄に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

メールを送る－メール (SMTP) 設定メニュー

管理者設定メニューの［メール（SMTP）］をクリックすると、メール（SMTP）設定メニューが表示されます。
メール（SMTP）機能を使用すると、内蔵の動体検知機能に連動してアラームメッセージをメール送信することができます。また、映像ファイルを定期的に送信することも可能です。
メール（SMTP）設定メニューは [設定]、[送信トリガー] の 2 つのタブで構成されます。

設定タブ — メール（SMTP）機能の基本設定をする

メール（SMTP）機能

メール（SMTP）機能を使用するときは［オン］を選択します。下部に共通設定項目が表示されます。
メール（SMTP）機能を使用しないときは［オフ］を選択し、［OK］をクリックします。

ご注意

・メールで映像ファイルを送信中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。
・メール（SMTP）機能を使用して音声ファイルを送信することはできません。

SMTP サーバー名

SMTP（送信メール）サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または SMTP メールサーバーの IP アドレスを入力します。

認証設定

メールの送信に要求される認証方法を設定します。

[なし]：メール送信に認証が必要がない場合に選択します。

[SMTP 認証]：メール送信に SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

[POP before SMTP 認証]：メール送信に POP before SMTP 認証を必要とする場合に選択します。

POP サーバー名

[認証設定] で [POP before SMTP 認証] が選択されているときに必要です。
POP サーバー名を半角 64 文字以内で入力します。または POP サーバーの IP アドレスを入力します。この設定は、メールを送信する SMTP サーバーが POP ユーザーのアカウントを利用した認証を行う場合に必要です。

ユーザー名、パスワード

メールアカウントを持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。この設定はメールを送信する SMTP サーバーが認証を行う場合に必要です。

宛先アドレス

宛先のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
3 送信先まで入力できます。

管理者アドレス

カメラの管理者のメールアドレスを半角 64 文字以内で入力します。
メールの返信およびメールサーバーからのシステムメールの宛先となります。

件名

メールの件名／題名を半角 64 文字以内で入力します。

本文

メールの本文を半角 384 文字以内、全角 192 文字以内（改行は半角 2 文字換算）で入力します。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

送信トリガータブ－メール送信の方法を設定する

定期的にメールを送信したり、内蔵の動体検知機能に連動してメールを送信したりするための設定を行います。

動作モード	MPEG4	JPEG
定期送信	メッセージ送信のみ	画像添付送信可能
動体検知送信	メッセージ送信のみ	なし

定期送信

定期送信を行いたい場合には [オン] にします。[オフ] に設定すると定期送信は行いません。

送信間隔

定期的にメールを送信する時間間隔を設定します。
最短 30 分間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

ファイル添付（JPEG モード時のみ）

映像ファイルをメールに添付して送信するかどうかを設定します。
[オン] を選択すると、以下の設定にしたがって作成された映像ファイルを添付します。[オフ] を設定するとメール本文のみが送信されます。

ご注意

カメラの動作モードが [JPEG] に設定されている場合のみ表示されます。

映像ファイル名称

メールに添付する映像ファイル名を、半角英数字と－（ハイフン）、_（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

サフィックス

メール送信時に添付されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付／時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付／時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）、+00（固定 2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

動体検知送信（MPEG4 モード時のみ）

動体検知機能に連動したメールの送信を行いたい場合は [オン] に設定します。[オフ] に設定すると動体検知送信は行いません。
[Motion detection] をクリックすると、動体検知設定ページが表示され、動体検知機能の設定を行うことができます（35 ページ）。

ご注意

・[動体検知] は、カメラの動作モードが [MPEG4] で [画像切り出し] が [オフ] に設定されている場合のみ動作します。
・動体検知送信では、メールに映像ファイルを添付することができません。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

FTP サーバーへ画像を送信する（JPEG モード時のみ）

– FTP クライアント設定メニュー

管理者設定メニューの［FTP クライアント］をクリックすると、FTP クライアント設定メニューが表示されます。
FTP クライアント機能を使用すると、映像ファイルを定期的に送信することが可能です。

設定タブ — FTP クライアント機能の基本設定をする

FTP クライアント機能

FTP クライアント機能を使用するときは［オン］を選択します。
FTP クライアント機能を使用しないときは［オフ］を選択します。

ご注意

・FTP クライアント機能はカメラの動作モードが [JPEG] に設定されている場合のみ動作します。
・FTP クライアント機能によるファイル転送中は、メインビューアーのモニター画像のフレームレートや操作性が低下します。

FTP サーバー名

アップロードする FTP サーバー名を半角 64 文字以下で入力します。または FTP サーバーの IP アドレスを入力します。

ユーザー名

FTP サーバーに対するユーザー名を入力します。

パスワード

FTP サーバーに対するパスワードを入力します。

パスワード確認

パスワードの確認のため、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

パッシブモード

FTP サーバーへ接続するとき、FTP サーバーのパッシブモードを使用するかどうかを設定します。[オン] を設定するとパッシブモードで接続します。

OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

送信トリガータブ ― 定期的な FTP 送信の方法を設定する

映像ファイルを定期的に FTP サーバーに送信するための設定を行います。

定期送信

定期送信を行いたい場合には [オン] にします。[オフ] を設定すると定期送信は行いません。

ご注意

定期送信機能はカメラの動作モードが [JPEG] に設定されている場合のみ動作します。

送信間隔

FTP サーバーに定期的に画像を送信する時間間隔を設定します。
最短 1 秒間隔、最長 24 時間（1 日）が設定できます。

ご注意

画像サイズや設定画質、ビットレート、ネットワーク環境などにより、実際に送信される間隔は、設定した間隔より長くなる場合があります。

転送パス

送信先パスを半角 64 文字以内で入力します。

映像ファイル名称

FTP サーバーに送信する映像ファイル名を、半角英数字と－（ハイフン）、＿（アンダースコア）を使って 10 文字以内で入力します。

ご注意

FTP の定期送信機能を使用して音声ファイルを送信することはできません。

サフィックス

FTP サーバーに送信されるファイル名に付けるサフィックス (接尾部) を選択します。

[なし]：送信されるファイル名は映像ファイル名になります。

[日付 / 時刻]：送信されるファイル名は映像ファイル名に日付 / 時刻が付加されます。
日付／時刻のサフィックスは、西暦下位（2 桁）＋月（2 桁）＋日（2 桁）＋時（2 桁）＋分（2 桁）＋秒（2 桁）、+00（固定 2 桁）、合計 14 文字がファイル名に付加されます。

[シーケンス番号]：送信されるファイル名は映像ファイル名に 0000000001 ～ 4294967295 の連続番号（10 桁）が付加されます。

シーケンス番号クリア

[Clear] をクリックすると、シーケンス番号のサフィックスが 1 に戻ります。

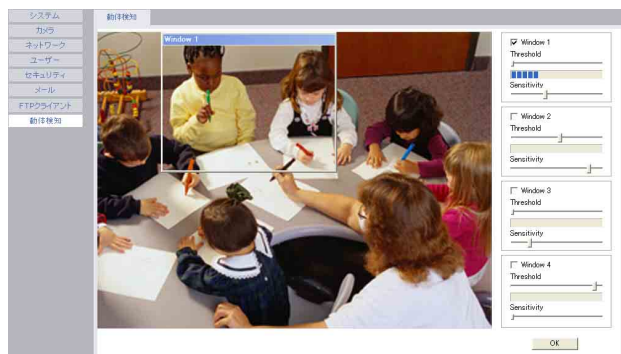
OK/Cancel

「各設定メニューの共通ボタン」（20 ページ）をご覧ください。

動体検知機能を設定する
－動体検知設定メニュー

管理者設定メニューの［動体検知］をクリックすると、動体検知設定メニューが表示されます。
このメニューでは 内蔵の動体検知機能を動作させる条件の設定を行います。
このメニューは、メール (SMTP) 設定メニューの送信トリガーで [Motion detection] ボタンをクリックすると表示される設定メニューと同じです。

ご注意

動体検知機能は、カメラの動作モードが [MPEG4] で [画像切り出し] が [オフ] に設定されているときのみ、動作・設定が可能です。

動体検知設定メニューは次の５つの部分に分けられます。

モニター画面

動画をモニターし、検知枠の設定を行います。

Window １～ Window ４（検知枠）チェックボックス

チェックすると、指定の検知枠がモニター画面上に表示されます。

Threshold（しきい値設定）スライダーバー

カメラ映像に動きがあったかどうかを判定するしきい値を設定します。

動体検知インジケーター

現在撮影している映像の、指定した検知枠の中での動きのレベルが表示されます。

Sensitivity（感度設定）スライダーバー

映像の動きに対する感度を設定するために使用します。スライダーバーを左端に動かすと感度は０となり、どのような動きに対しても動体を検知しません。右端が最大の感度となります。

動体検知領域と感度、しきい値を設定する

以下の手順で動体検知機能が働く領域と感度、しきい値を設定します。

1 Window 1 チェックボックスをチェックする。
モニター画面上に Window 1 枠が表示されます。

2 Window 1 枠を動体検知設定を行いたいエリアに設定する。
Window 1 枠をクリックし、ドラッグすることで枠を移動したり、枠の大きさを変更したりすることができます。

3 動体検知の感度を設定する。
動体検知インジケーターの表示レベルを参考に、感度を大きくしたい場合には、Sensitivity スライダーバーを右側へ動かします。感度を小さくしたい場合には、左側へ動かします。

4 動体検知のしきい値を設定する。
手順３と同様に Threshold スライダーバーを操作し、カメラが動体検知を行うレベルを設定します。

5 必要があれば、その他の検知枠（Window 2、3、4）についても手順 **1** ～ **4** の操作で領域と感度、しきい値を設定します。

ご注意

- 各設定は [OK] ボタンをクリックするまで反映されません。
- 動体検知機能をお使いのときは、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してからお使いください。
- 以下の場合、動体検知機能が正常に動作しないことがあります。
  －カメラ設定メニューでカメラの設定変更を行っているとき
  －被写体が暗いとき
  －カメラが設置された場所が不安定で、カメラが振動するとき
  － MPEG4 の [ビットレート] 設定で、小さいビットレートが選択されているとき（64kbps、128kbps）

– MPEG4 の [フレームレート優先] が [オン] に設定されているとき

カメラの設定

携帯電話によるモニタリング

本カメラでは、携帯電話のブラウザ（ホームページ閲覧機能）を使用して静止画像をモニターできます。一般的な操作手順は以下のとおりです。詳しい手順は、ご使用の携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

1 携帯電話の [URL 入力] メニューを開き、モニターしたいカメラの IP アドレスまたはホスト名を次のように入力する。
＜例＞
http:// ＜カメラの IP アドレスまたはホスト名 >/

2 ユーザー名、パスワードの入力を促す画面が表示されたら、カメラのユーザー名、パスワードを入力する。
カメラ側の設定により、この画面が表示されない場合もあります。
現在のカメラの画像が画面に表示されます。

3 カメラ画像を更新するには、[更新] ボタンを選択します。

ご注意

- 携帯電話の機種によっては、画像が正しく表示できない場合があります。
- ユーザー名とパスワードによる認証機能に対応していない携帯電話では、画像を表示できない場合があります。
- 表示される静止画像のサイズは 160 × 120 (QQVGA) になります。
- 携帯電話では音声を聞くことはできません。

この章では、付属の CD-ROM に収録されているアプリケーションソフトウェアやコマンド類の使いかたを説明します。

付属のセットアッププログラムを使う

ここでは、付属のセットアッププログラムの Network タブ以外の機能を説明します。

セットアッププログラムのインストールおよびカメラへの IP アドレスの割り当て、ネットワーク設定のしかたは、「準備」の（「カメラに IP アドレスを割り当てる」9 ページ）をご覧ください。

セットアッププログラムを起動する

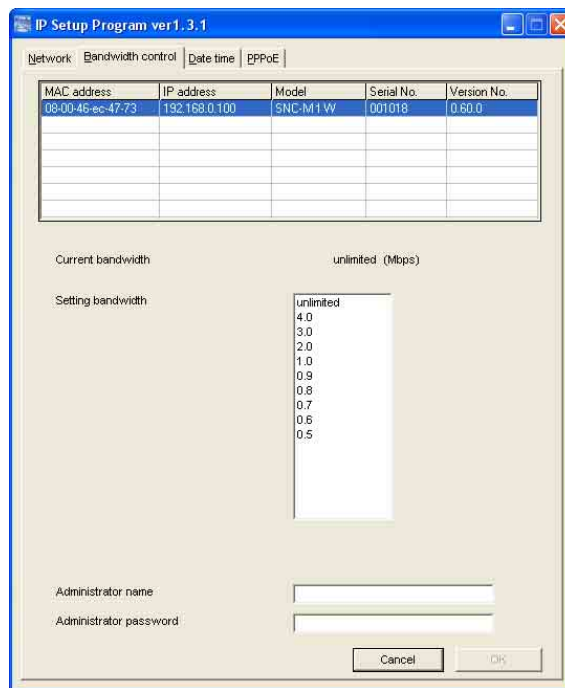
Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[IP Setup Program] 、[IP Setup Program] の順に選択します。
IP Setup Program が起動します。
Network タブが表示され、IP Setup Program がローカルネットワーク上に接続されているカメラを検出してリストを表示します。

通信帯域を変更する

カメラの動作モードが [JPEG] のときの通信帯域を設定できます。

ご注意

カメラの動作モードが [MPEG4] のときは、帯域制限はできません。

1 Bandwidth control タブをクリックして帯域制限設定画面を表示する。
現在設定されている帯域制限が Current bandwidth 欄に表示されます。

2 リストから通信帯域を設定したいカメラをクリックして選択する。

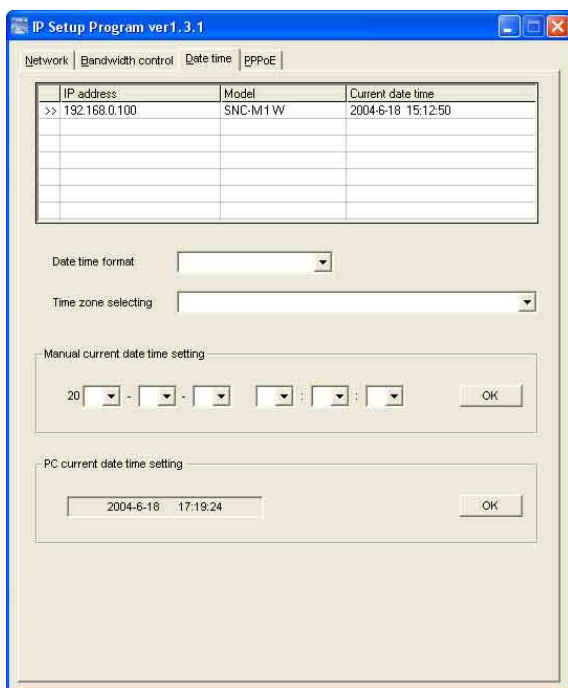
3 Setting bandwidth リストボックスから、変更したい帯域制限をクリックして選択する。

4 Administrator name と Administrator password 欄に管理者の名前とパスワードを入力する。

5 ［OK］をクリックする。
「Setting OK」が表示されれば、帯域制限の設定は終了です。

日付、時刻を設定する

カメラの日付と時刻を設定します。

1 Date time タブをクリックして日付・時刻設定画面を表示する。

2 リストから日付・時刻を設定したいカメラをクリックして選択する。
複数のカメラを選択して、同時に日付・時刻を設定することができます。

3 Date time format リストボックスから、日付・時刻のフォーマットを選択する。

4 Time zone selecting のリストボックスから、カメラが設置されている地域を選択する。

5 日付・時刻を設定する。
次の２とおりの設定方法があります。

マニュアルで設定する
Manual current date time setting の各ボックスに現在の日付と時刻を設定する。
ボックスは、左から「年（下２桁)」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」です。
設定が終わったら右端の［OK］をクリックするとカメラに反映されます。

コンピューターの日付・時刻に合わせる
PC current date time setting 欄にコンピューターに設定されている日付と時刻が表示されています。この日付・時刻に設定するときは、右端の［OK］をクリックします。

ご注意

・ネットワークの特性上、設定された時刻には多少のずれが発生する場合があります。
・本機で PPPoE の設定はできません。

カメラを再起動する

Network タブの［Reboot］をクリックすると、カメラを再起動できます。
再起動には、約２分かかります。

その他

SNC audio upload tool を使う－カメラに音声を送信する

付属の SNC audio upload tool を使うことにより，お使いのコンピューターからカメラに音声を送信することができます。
ここでは，音声をカメラに送信するための設定と操作方法を説明します。

送信する音声データは以下の形式をサポートしています。

形式	帯域
G.726	40kbps
G.726	32kbps
G.726	24kbps
G.726	16kbps

ご注意

カメラに音声を送信できるのは管理者 1 人だけです。したがって、2 人目以降の人が SNC audio upload tool を使ってカメラにアクセスしても音声を送信することはできません。

SNC audio upload tool をインストールする

1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れる。
しばらくすると、画面に CD-ROM の内容が表示されます。

2 SNC audio upload tool の Setup アイコンをクリックする。
「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されます。

3 [開く] をクリックする。

ご注意

「ファイルのダウンロード」ダイアログで [保存] をクリックすると、正常にインストールできません。ダウンロードされたファイルを削除して、もう一度 Setup アイコンをクリックしてください。

4 画面に表示されるウィザードに従って「SNC audio upload tool」をインストールする。
使用許諾に関する文面が表示されたら、よくお読みいただき、同意の上、インストールを行ってください。

カメラとコンピューターを接続する

1 カメラの (ライン出力) 端子にスピーカーを接続する。

2 コンピューターのマイク端子にマイクを接続する。

ご注意

コンピューターによってはマイク端子の設定が適切に設定されていない場合があります. この場合、無音データが送信されてカメラに接続したスピーカーからは音が出ません。
Windows のコントロールパネルから、マイク端子を次のように設定してください。

Windows 2000 の場合

1 コントロールパネルの [サウンドとマルチメディア] を選択する。

2 [オーディオ] タブの [録音] 欄にある [音量] ボタンをクリックする。
Recording Control パネルが表示されます。

3 [Microphone] 欄の [選択] チェックボックスを有効にする。

WindowsXP の場合

1 コントロールパネルの [サウンドとオーディオデバイス] を選択する。

2 [オーディオ] タブの [録音] 欄にある [音量] ボタンをクリックする。

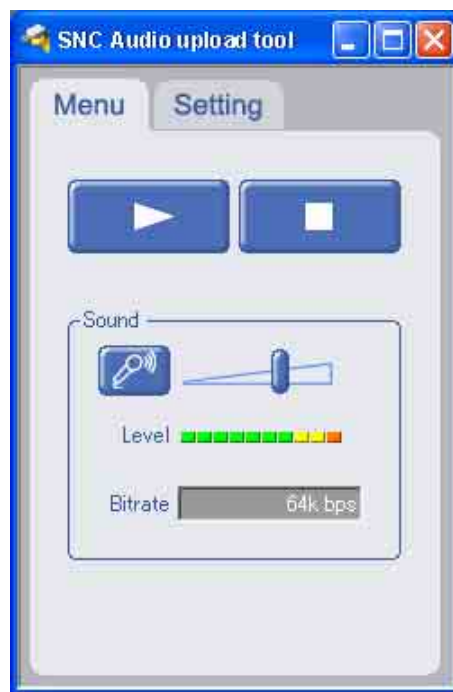
Recording Control パネルが表示されます。

3 [マイク] 欄の [選択] チェックボックスを有効にする。

その他

SNC audio upload tool の使いかた

SNC audio upload tool を起動すると次の画面が表示されます。

Menu タブ

►（スタート）/■（ストップ）

► をクリックすると音声通信が始まります。通信中は Bitrate（ビットレート）欄に通信速度が表示されます。使用環境に合わせて、マイク音量やミュート機能を調整してください。
音声の送信を終わるときは、■ をクリックします。

ご注意

通信中は、Setting タブで IP アドレス、ポート番号、音声モードを変更しても、送信を止めない限り有効になりません。

Sound 調整と表示

スライダーバーでマイク入力の音量を調整します。音声送信中でも調整可能です。
マイクアイコンをクリックすると、ミュートのオン／オフを切り換えることができます。
Level 欄には、マイク入力の音量レベルが表示されます。
Bitrate 欄には、現在の通信速度が表示されます。

Setting タブ

User

User ID 欄と Password 欄にカメラの管理者用ユーザー ID とパスワードを設定します。
工場出荷時の管理者用ユーザー ID は「admin」、パスワードは「admin」です。

Camera address

音声送信したいカメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

Camera port

音声送信したいカメラのポートを設定します。
初期設定は，HTTP ポート（80 番）になっています。

CODEC

リストボックスから音声モード（CODEC）を選択します。

ARP コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる

ここでは、付属のセットアッププログラムを使わずに、ARP（Address Resolution Protocol）コマンドを使ってカメラに IP アドレスを割り当てる方法を説明します。

ご注意

ARP コマンドの入力は、本機の電源を入れてから 5 分以内に行ってください。

1 コンピューター上でコマンドプロンプトを開く。

2 ARP コマンドを使って、IP アドレスとその IP アドレスを割り当てるカメラの MAC アドレスを入力する。

```
arp -s  ＜本機の IP アドレス＞  ＜本機の MAC アドレス＞
ping -t  ＜本機の IP アドレス＞
```

例：

```
arp -s  192.168.0.100  08-00-46-21-00-00
ping -t  192.168.0.100
```

3 DOS 画面に次の行が表示されたら [Ctrl] + [C] を押す。
停止します。

```
Reply from 192.168.0.100:bytes=32 time...
```

ご注意

返答が受け取れない場合は、以下のことを確認してください。

– 本機の電源を入れてから 5 分以内に ARP コマンドを入力しましたか？
  いったん電源を切ってから操作し直してください。
– カメラ本体の NETWORK インジケーターが消えていませんか？
  ネットワークを正しく接続してください。
– 割り当てられた IP アドレスがすでに使われていませんか？
  新しい IP アドレスを割り当ててください。
– ping コマンドを実行したコンピューターと本機が同じネットワークアドレスを持っていますか？
  同じネットワークアドレスを入力してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

「設置説明書」および「ユーザーズガイド」（本書）をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、またはお近くのソニー業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

主な仕様

対応ブラウザ　Internet Explorer Ver5.5、6.0
（対応 OS：Windows 2000/XP）
撮像素子　1/4 型 CMOS
有効画素数　約 31 万画素（652（H）× 482（V））
内蔵レンズ　焦点距離：f ＝ 3.7mm、
最大口径比：F2.0
画角：水平 51.0°、垂直 38.9°
撮影距離：0.8m 〜∞
映像圧縮方式　MPEG4/JPEG （切り替え）
最大フレームレート
MPEG4：30fps（QVGA）
JPEG：30fps（QVGA）
音声圧縮方式　G.726（40、32、24、16kbps）
対応プロトコル　TCP/IP、ARP、ICMP、DHCP、DNS、HTTP、FTP、SMTP、NTP
ネットワークポート
10BASE-T / 100BASE-TX（RJ-45）
無線 LAN　準拠規格：IEEE802.11b、
周波数：2.4GHz 帯
伝送速度：11Mbps、5.5Mbps、2Mbps、1Mbps（自動切換）
セキュリティ：WEP（64/128 ビット）
内蔵マイク　エレクトレットコンデンサーマイクロホン（全指向性）
マイク入力端子　ミニジャック（モノラル）
プラグインパワー方式対応（基準電圧 2.4VDC）
推奨負荷インピーダンス 2.2kΩ
ライン出力端子　ミニジャック（モノラル）、最大出力レベル：1Vrms
水平解像度　400 TV 本
最低被写体照度　4.5lux (AGC ON、30IRE)
電源電圧　DC 5V
消費電力　SNC-M1：2.9W
SNC-M1W：5.2W
動作温度　0 ℃〜＋ 40 ℃
動作湿度　20 〜 80%
保存温度　− 20 ℃〜＋ 60 ℃
保存湿度　20 〜 95%
質量　カメラ：SNC-M1：約 250g
SNC-M1W：約 280g
スタンド：約 80g
外形寸法　カメラ：φ110 × 68.5 mm（外径／高さ）、突起部は含まず
スタンド：142 × 94.2 × 102mm（幅／高さ／奥行き）

付属品

AC電源アダプター（1）、電源コード（1）、スタンド（1）、落下防止ひも（1）、ゴム足（4）、タッピンネジ（4 × 20）（3）、保証書（冊子）（1）、保証シート（1）、CD-ROM（ユーザーガイド、付属プログラム）（1）、設置説明書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

（SNC-M1のみ）
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

定期交換部品について

本機で使用されている部品の中には有寿命部品として定期交換が必要なもの（電解コンデンサーなど）があります。
使用環境や条件により部品の寿命は異なりますので、長期間ご使用される場合は定期点検をお勧めします。
◆詳しくはお買い上げ店にお問い合わせください。

用語集

キャプチャー

映像や音声のデジタルデータを映像機器からコンピュータの中に取り込むこと。

サブネットマスク

IPアドレスのうち、上位の何ビットをネットワークを識別するためのネットワークアドレスに使用するかを決める32ビットの数値。

鮮鋭度

隣合った2つの部分の境界がどの程度明瞭に区別できるかの度合い。

セカンダリーDNSサーバー

DNSサーバーの一種で、プライマリDNSサーバーが利用できないときに処理を肩代わりするサーバー。

帯域制限

転送されるデータの量を制限すること。

デジタルズーム

光学的なズームではなく、撮影映像をソフトウェア的に拡大することによりズームを行う方式。

デフォルトゲートウェイ

所属するネットワークから他のネットワークへアクセスするときに経由する機器。

ネットワークアドレス

IPアドレスのうち、ローカルのネットワーク（サブネット）を識別するのに使われる部分。

ネットワーク帯域

ネットワークを利用できる接続速度。

パッシブモード

FTPクライアント側からFTPサーバーへ向けてデータ転送用のTCPコネクションをオープンするモード。

ビットレート

データを転送するときの速度。

プライマリー DNS サーバー

DNS サーバーの一種で、各機器や他の DNS サーバーからの問い合わせを優先的に処理するサーバー。

フレームレート

1 秒間に伝送できる動画像のフレーム数。

プロキシサーバー

内部のネットワークとインターネットの間にあって、直接インターネットに接続できない内部のネットワークのコンピュータに代わって、インターネットへの接続を行なう機器またはソフトウェア。

ActiveX コントロール

Microsoft 社が開発したソフトウェアの部品化技術。Web ページまたはその他のアプリケーションに挿入できるコンポーネントまたはオブジェクト。

ARP コマンド

ホストマシン中にある、IP アドレスと MAC アドレスの対応表（エントリー）を確認したり、更新するためのコマンド。

CODEC

映像や音声データを圧縮・伸張するソフトウェア及びハードウェアのこと。

DHCP サーバー

Dynamic Host Configuration Protocol Server の略で、固定の IP アドレスを持たない端末に自動的に IP アドレスを振り分けるプロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを割り振るサーバー。

DNS サーバー

Domain Name System Server の略。IP ネットワーク上の機器同士が接続する場合、接続相手の IP アドレスが必要であるが、数字の並びである IP アドレスでは相手を想像することが難しいため、相手に名前を付加し（ドメイン名）、それで相手を想像することを容易にするシステムが構築された。これが Domain Name System である。クライアント機器は、ドメイン名を使用して相手機器に接続するとき、DNS サーバーに問い合わせをすることで、相手機器の IP アドレスを取得して接続する。

FTP クライアント

FTP サーバーにアクセスするときに使われるソフトウェア。

FTP サーバー

ファイルを転送するときに使われるサーバー。

HTTP ポート

Web サーバとクライアント（Web ブラウザなど）がデータを送受信するときに使うポート。

IP アドレス

Internet Protocol Address の略。基本的にインターネットに接続する機器は、独自の IP アドレスが割り当てられている。

JPEG

Joint Photographic Expert Group の略で、ISO（国際標準化機構）と ITU-T によって標準化されている静止画圧縮技術またはその規格のこと。インターネット上でなど、画像ファイルの圧縮方式として広く使用されている。

MAC アドレス

各 LAN カード 1 枚 1 枚に割り当てられている固有の ID 番号。

MPEG4

Moving Picture Experts Group phase4 の略で、映像データの圧縮方式の 1 つで MPEG 規格の 1 つ。低画質、高圧縮の映像配信用途のための規格。

NTP サーバー

ネットワーク内で標準的に利用されている時刻情報サーバー。

POP サーバー

受信した電子メールを保管しているサーバー。

SMTP サーバー

電子メールを送信または中継するためのサーバー。

TCP

Transmission Control Protocol の略。インターネットで使用される標準プロトコル。インターネットでは他のプロトコルとして UDP も使われるが、UDP は転送速度は速いが信頼性が低く、TCP は信頼性は高いが転送速度が遅いという特徴がある。

索引

五十音順

アルファベット順

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/